



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: https://www.asachu-rc.jp



R.I.会長 ジェニファー・ジョーンズ

地区ガバナー 嶋村 文男

2022 - 2023 年度テーマ

クラブテーマ 「 前 進 」

クラブ会長 伊 石 佳 高

本日の例会

夜間例会

今後の例会（卓話）予定

4/26	29日祭日振替（昭和の日）	
5/3	祭日（憲法記念日）	
5/10	「相続税務」	桑田悠子 様
5/17	定款休会	
5/24	会員卓話「8020運動」	江連雅孝会員
5/24	会員卓話	田村順二会員



5日結婚記念日

5日（48周年）長沼ご夫妻 ・ 9日（48周年）小林（雅）ご夫妻
 10日（12周年）五十嵐ご夫妻 ・ 11日（36周年）田村ご夫妻
 19日（6周年）立野ご夫妻

前回（4/5 1732 回例会）の記録

来 訪 者 紹 介

- ◆ゲスト 2名 (公社)東京青年会議所台東区委員会 副委員長 大野真徳 様
(公社)東京青年会議所台東区委員会 委員 木川岳秋 様
- ◆ビジター 0名

出 席 報 告

総会員数	休 会	出席免除	出 席	欠 席	出席率	修 正 出 席 率
45名	2名	6名	37名		100%	

※2023年5月第1例会まで、新型コロナウイルス対策ガイドラインに則り、全員出席扱いとさせていただきます。

会長挨拶<伊石会長>

・皆さんこんにちは。
 本日はロータリー米山記念奨学会より米山
 功労者の感謝状が届いております。
 お配り致しますので該当者の方はお名前を
 呼びます。恐れ入りますがご登壇願います。

原田毅会員・後上清会員・浜中清会員・河
 村英朗会員・宮崎守弘会員・太田富美夫会
 員・高木祐輔会員・立野秀一会員・内田力
 会員・吉沼隆秀会員
 以上10名の会員の皆様に感謝の意が届きました。
 ありがとうございました。

幹事報告<立野幹事>

- ①本日例会終了後、第10回理事役員会を開催
 いたします。該当の方、ご出席をお願い致
 します。
- ②次週は4月11日5クラブ合同例会となり、
 当クラブでの例会はございません。また、

- 4月19日は夜間例会で25階大輪の間で18時
 半開会となります。
- ③5月13日にロータリーフェローズ東京主催
 の「知的交流の夕べ」という催しが行われ
 ます。事務局にてご確認ください。



2023年4月19日

第1734回例会

会長 伊 石 佳 高
 幹事 立 野 秀 一



委員会報告

<江連次年度幹事>

- ・次年度役職委員会表をポケットに配布致しました。ご確認下さい。

- ・4月14日(金)国際ロータリー第2580地区研修協議会が14時より“ホテル椿山荘東京”にて開催されます。該当者ならびに代理出席される方、よろしくお願い致します。

ニコニコボックス

<伊石会長、立野幹事、江連、古谷、本間、五十嵐、岩田、伊藤、加藤、松本、長沼、中村、大塚、斎藤、佐藤、澤野、園部、常見、内田、上原>

- ・本日は炉辺会合報告会です。報告者の皆様よろしくお願い致します。

<後上、浜中、岩戸、片岡、太田、関原、高橋、渡辺>

- ・東北復興支援継続を！

<太田、海内>

- ・お誕生日のお祝いをして戴きありがとうございました。

<浜中>

- ・100%出席の表彰をして戴きまして誠にありがとうございました。

<桜井>

- ・3月18日に浅草ビューホテルアネックス六区を開業させて頂きました。クラブより素敵なお花を頂き、ありがとうございました。

第2回 炉辺会合報告会

「国際交流について」

Aグループ



【メンバー】

リーダー：浜中 書記：中橋
岩田、古谷、斎藤、岩田、上原、原田

【はじめに】

炉辺会合 Aグループでは、国際交流について議論が行われた。姉妹クラブを作ることには財政的な制約があるとの意見が出た中で、日本語が通じる国との姉妹クラブは面白いというアイデアが出された。しかし継続事業とすることはハードルが高いため、1回（単年度）で実行可能な国際交流からスタートすること、クラブとして責任を負わない国際交流を考えるべきであるという結論が得られた。

【議論内容】

- ・姉妹クラブを作るとは財政的に現状では困難。どの国と姉妹クラブを作るとしても共通言語は英語。単年度事業が基本となる中、継続的に姉妹クラブ

を維持できる人材が当クラブに存在し続ける事が可能か疑問。

- ・日本語で交流ができる国との姉妹クラブは面白いのでは。
- ・日本と海外の姉妹クラブの場合、日本のクラブからは行くが海外クラブからは経済的に来ない状況。双方向の関係が理想だが現実的には経済的に困難な場合が多い。各国のロータリーで年間費が異なる（日本は高い）ので、ロータリーに対するモチベーションも違うことを理解する必要がある。
- ・姉妹クラブ議論の前に青少年交換留学生の今後の受け入れについて議論するべき。
- ・一度きり（単年度のみ）の国際交流からスタートするべき。
- ・当クラブの経済的な面も考慮して国際交流を議論する必要がある。

B グループ



【メンバー】

リーダー：渡辺 書記：園部
大塚、関原、上野、本間、五十嵐、常見、藤掛

- ・会員のなかに、すでに国際交流を経験している者がいる。経験談を通して、クラブに関わることはできないものか、検討するのもいいと思う。
- ・外国クラブとの交流を考えるならまず国内で友好クラブを作るべきではないか。友好クラブとの交流に関わるいろいろな問題を経験してから考えるべきであろう。言葉の壁、それから日本の浅草ということで、交流よりも観光目的で来日される恐れもあるのではないか。
- ・すでに国際交流を実践している他クラブを卓話に招いて、いろいろな事例を知る必要がある。そして我々の実現可能性を考えてみたい。
- ・気を付けるべきは、新しい「義務」を作らないこと。

C グループ



【メンバー】

リーダー：田村 書記：高木
小林、太田、土師、片岡

海外ロータリークラブとの交流は、時間の余裕など少ない現役世代には難しいのでは？また、具体的にどのような交流と活動を行うのか？（ポリオ合同支援など）

現在、先進国の中で日本は超少子高齢化、インフレ、円安など経済も国力も非常に低下している。海外、例えばマレーシア、台湾、スイス、欧米のロータリアンは富裕層が多く、我々と比較して経済的豊かさ、パワーバランス、お金持ちのレベルが違う。国際交流、姉妹提携するにしろ、相手の状況を見て無理なく行うことが大切ではないか。また、姉妹提携するメリット・デメリットも十分に検討した方がよい。

今後、日本そのものが世界に出て行かねばならないが、例えば世界の学生に比べると、日本の学生が海外留学することは非常に少ない。

ますます、世界で通用する日本の人材が少なくなる。

(2020年海外留学生数統計／世界196カ国中、

1位：中国、2位：インド、3位：ベトナム、4位：ドイツ、5位：アメリカ、
6位：フランス、7位：韓国・・・38位：日本)

→日本人留学しない理由：①興味がない②語学力に不安がある③外国生活に不安がある。

もはや、「青年は荒野をめざす」「ハングリー」という言葉は失われつつある。テレビは、お笑いかグルメ番組……。

もしもすべての大人たちが「若い人たちの方が前を歩いている」と思うことができたなら、日本も世界も大きく変わるでしょう。

今後、世界から見た日本は、政治の貧困、リーダーの不在、格差社会、国民のモラル低下生産性の低下など世界での発言力は低下し世界では通用しない。状来に向け積極的に国際交流を行い、経済の勉強を含め世界の変化を見極めることが大切。

当クラブでも国際大会への参加意欲を高める必要がある。また、足腰が元気なうちに出来るだけ世界を旅行して視野を広めることが大切。

Dグループ



【メンバー】

リーダー：吉沼 書記：佐藤
伊石、伊藤

- ・入会に際して当クラブは国際奉仕に積極的な印象は無かった。RIと日本、当クラブの関係性から国際奉仕に疎遠となるのは望ましくないと思う。上野クラブが台湾、韓国、サンマリノ共和国などと交流があるようだがその内容は聞こえて来ない。

- ・数年前に台湾のクラブとの交流を模索したがコロナの影響で断念せざるを得なかった経緯は聞いている。ただ、何故海外クラブとの交流なのか、国内での姉妹クラブを作ってからステップとして海外クラブとの交流を図るべきではないか。
- ・現在の当クラブの財務状況からそのような交流に費用を割り当てられるのか心配である。交流によりクラブ活動が活発になることは良いことだが、費用面そして具体的な目的をしっかりと立てて行かないと尻つぼみになってしまうのではないか。
- ・言葉の壁をどう克服するのか気になる。複数の国から来日するミッションに当クラブが参加するような機会を経て、その後に海外クラブとの個別交流が始まるような進め方が良いのではないか？
- ・海外クラブとの友好関係を築く際に、異文化を知る、社会情勢や問題点を共通認識とするなどを最初は考えても結局は「観光」がメインとなっては意味が無いのではないか。
- ・ロータリーの起源であるアメリカを始めとする外国との交流は自国クラブの制度や考え方を見つめ直すには最良の教科書となるかと思うが、一方でコロナやロシアのウクライナ侵攻に伴う経済混乱で各国のクラブ会員も疲弊している時期と思うのでもう少し様子を見てから動き出したほうが良いのではないか。

【総括】

海外のクラブとの交流、国内クラブとの交流はロータリアンとしての資質を高めるために積極的に進めるべきと考えるが、クラブとしての明確なビジョン、交流の継続性を十分に考慮しなければならないという結論に達しました。

【雑感】

アルコール抜きという事、WBC試合前に完結させる事を主眼においた為、スピーディーな炉辺会合であった。

Eグループ



【メンバー】

リーダー：内田 書記：江連
中村、宮崎、潮田、立野

- ・国際奉仕を行う事によって国際交流に繋がった。
- ・国際奉仕とは海外のパートナーとの協同活動を通じて、平和と相互理解を推進する事であるが我が東京浅草中央RCはかなり遅れている。
- ・国際奉仕はしているが交流がされていない。

- ・他クラブでは姉妹提携している。
- ・海外に友好クラブをつくと継続では個人負担が多くなるのではないか。
- ・単年度で行う。
- ・海外の友好クラブをつくるよりまずは国内ではないか。
- ・経験してみることが一番大事。
- ・国力によっては当クラブが負担しなくてはならないのではないか。
- ・発展途上国にロータリーをつくる。
- ・新しい会員の為にも海外の友好クラブをつくるのは必要ではないか。
- ・東京浅草中央 RC に外国の方が入会する事も国際交流ではないか。

Fグループ



【メンバー】

リーダー：長沼 書記：後上
原田 特別ゲスト：浜中

前日松丸さんが大けがをしまして出席不可ということとなり急速浜中さんに参加をお願いし何とか四名で開催することができました。当日にも関わらず快く参加いただいた浜中さんに感謝申し上げます。少数精鋭ということもあり白熱した話し合いができました。二次会に行くこともなくその場で解散となりました。

国際交流の大切さは理解できているがいかにせん歳のせい自分の事をするのが目いっぱい辛うじて地元の奉仕に徹している。かつて30弱の国と地域を訪問してきたが現在はパスポートも切れたままである。私としては地域社会奉仕活動に今後も注力していきたい。

友好クラブ締結になると労力のもとより金銭面での負担がかなり生ずる懸念がある。候補的には台湾あたりが良いかと思う。

友好クラブの締結前段階でしっかり相手と話し合うのが大切。立ち上げる苦勞も継続する困難もあると考えられるので慎重に行うべきと考慮。

いろいろな役務が最近多くなっている傾向にありこれ以上は勘弁していただきたい。

友好クラブの前段階で数人での交流から始めると良いのではないか。

相手のクラブの体質をよく見きわめてから交流すべき。

久しぶりの炉辺面白かった。一部の人々が突っ走ると無理が生じる。

独裁者はその地位を守るために庶民を犠牲にする傾向が古来よりある。草の根の交流は必要。

パイオニアスピリットのある素晴らしき責任感、ぶれない能力のあるリーダーが提案し実践した場合はいろんなこと手伝う用意はある。